

令和元年度第6回 第三吾孺小学校 校長「語らいサロン」

## テーマ『中学校への進学について』

令和2年1月18日(土) 9:00-9:50 応接室にて

参加者 保護者6名(+元中学校教員1名)

川中子：おはようございます。今日は、「中学校への進学」をテーマにお話しできればと思います。まず初めに、自己紹介をお願いします。お名前と、お子さんの学年と、それからご自身が公立中か私立だったかをお話しただけると、今日の話題に参考になるかなと思います。まず、こちらは、私の元同僚でMさんです。

Mさん：浅草中学校時代の同僚です。私はもう仕事引退しているんですが、大学の学会に出ているんですが、現場の声って教授さんたちに今一つ届いていないんですね。そういう所に出させてもらって、現場の声を届けるようなお手伝いをさせていただければというようなことをしております。因みに私は、公立小中の出身で、子供も公立小中の出身です。今日はちょうど、中学校への進学がテーマで、まあ川中子先生もともと中学校の先生で、中学から高校への進路指導でもバリバリ活躍されていましたが、私も当時は一緒に仕事をしていました。そんなわけで今日は、お話し合いに参加させていただきたくてまいりました。

Aさん：Aです。子供は1年生です。私は、中学校から私立の学校に通っていました。

Bさん：Bです。6年と4年に男の子がいます。私はこの卒業で一中に通っていました。高校から私立です。

Cさん：Cです。子供が2年と6年にいます。私もこの卒業で、寺中に行きました。

Dさん：Dです。子供は2年生と4年生です。長女が寺中の1年生です。私は公立の中学校で、高校から私立だったんですが、その高校が中高一貫校だったので、附属中から高校に上がってきた子たちと一緒にになりました。

Eさん：Eです。子供は3年生です。私も公立中で。二寺小から、今は無くなってしまった向島中に行きました。

川中子：私は足立区の西新井の生まれで、足立区の小学校、中学校、都立のこうこうへ行って、その後は私立の大学に行きましたね。教員になって、私は中学校の英語の担当で、Mさんは数学の先生でした。元々、中学校の先生っていうのは、生徒に高校入試がありますので、誰でも入試のことを意識して指導しています。中学を卒業するときに、高校入試で合格できる学力を保證してあげないとならないし、一人一人の生徒にとってどんな高校がいいかという相談にのるための情報収集も熱心に行っていますし、高校入試の問題がどんなものかという研究も熱心に行っています。それに比べますと、小学校の担任の先生というのは、ほとんどの場合受験ということを意識していませんので、簡単に言うと、中学受験についてはほとんど素人のようなものだと言えます。塾の先生とはまったく違うものです。

今日は、私立の受験のことについても話したいとは思いますが、それは話題の一つとして、もう少し広い視点でお話したいなと思います。

では、今日は資料も用意しておいたんですが、まず初めに、小学校と中学校は何がちがうのかっていうのを見ておいた方がいいかな、と思います。今日は1年生のお母さんから6年生のお母さんまでいらっしゃいますが、まずは、当然のことながら、発達段階が違います。小学校も1年生と6年生とでは、まったく別の存在です。入学したては、まだポヨポヨした感じですが、6年生になると本当にしっかりしますよね。ある意味で、6年生のしっかりしているのは、中学生以上であったりします。(Fさん来場)

お父さん、お名前とお子さんの学年を教えてくださいませんか。

Fさん：2年と3年に子供がいますFです。

川中子：お父さんはご自身は中学校は公立でしたか、私立でしたか？

Fさん：私立でした。

川中子：そうですね。いろいろな方がいらっしゃるの、いいお話が聞けそうです。

さて、6年生もとても立派ではあるんですが、中学生と比べるとやはり、「守られた存在」で、保護者の方の影が見えます。中学校から小学校に移ってきて、それは強く感じました。6年生でも、保護者の方との依存関係 — 子供は保護者に依存しているし、保護者も子供に依存しています。それが中学

生になると、子供の方がどんどん親から離れていきますので、中学生を見ていると、保護者の影はあまり見えてきません。その子の人格や存在そのものが非常に際立ってくるのが中学生ですね。

中学校はたった3年なんです、小学校の6年間に負けないくらい、その3年間で変わります。特に男の子なんかは、入ってきたころはかわいい顔しているんですが、卒業する頃にはオッサンのような顔になったりするんですね。びっくりします。女の子は入ってきたときから大人っぽい子もいますが。

中学校の3年間の成長も本当に凄いもので、心と体の成長が一致しないことがあり、アンバランスになって苦しい思いをしたりもします。「思春期」なんて言われています。

それから、中学生になると、部活が始まり、部活が中心の生活になっていきます。友達が一番大事で、大人の言っていることを素直に受け入れられなくなります。反抗期は、5、6年生から始まる子もいますが、中学校時代はその真っ只中です。高校生くらいになると、もう少し大人になって、大人の立場もある程度理解できるようになりますね。まあ、このように発達段階の違いはとて大きいです。

そして、勉強の仕方が変わります。教科の専門の先生が授業をして、専門の先生が作ったテストを受けます。その試験に合わせた勉強が必要になります。小学校は市販のテストをやりますので、問題もそんなに難しくなく、平均点も85点なんてことにはなりますが、中学校では試験勉強をしっかりしないといい結果は得られません。このような違いは大きいですね。

今、中学校に通っているお子さんがいらっしゃるの…、Dさんだけですか？

中学校は義務教育ですから、何もなくても自動的に住居のある所の中学校に入ることはできるのですが、区内の中学校でも選択することができますし、私立も国立も都立の中学校もありますので、保護者として考える必要があります。今日はそんなことを一緒に考えられればと思います。

それでは、資料を見ながら話を進めますので、いろいろご意見をお聞かせください。

まず、過去3年の三吾小の卒業生がどんな中学校へ行ったか調べてみました。28年度は区立が87%、私立が13%。29年度は私立が9.2%、30年度、去年が17%で、去年は私立に行った子が少し多くなりました。基本的には寺中にいく子が多く、吾二中、文花中もいます。吾立中は改修工事が終わって本当にきれいな学校になりましたから、北地区や南地区の子はいいなと考えているかもしれませんね。私立の学校は、いろんな学校に進学しています。と、このような状況でした。

私は、この学校に来る前は台東区の学校でしたが、その学校は台東区の中でも受験が盛んな学校でしたので、8割近くが受験をし、6割以上が私立や都立の中学校に進学します。そういう学校だと、もう今くらいの時期は6年生が3分の1くらいしか登校していないんです。インフルエンザにならないように、学校は休む。そして、塾で昼間から勉強しています。学校に行っても意味はない、と。大手の塾はそういうことをしています。私は非常に疑問に感じていました。まあ、また後で話したいと思いますが、三吾小は17%くらいですから、受験する子そのものがそれほど多くはありません。

公立の中学校と私立の中学校では、授業料を誰が負担するのかというところに大きな違いがあります。私たちもそうですが、公立の学校は地方自治体と国が補償していますが、私立は保護者が授業料を払います。これも、平成30年度の文科省の調査を調べてみました。公立の中学校に行くと48万円かかります。

Bさん：エッ？ 年間にですか？

川中子：はい。給食費や、教材費、修学旅行のお金などを足していくとこれくらいになります。それと、これに塾代なんかも含まれています。それに対して私立の中学校に行くと、140万6334円ですから、まったく違う状況です。ええ、この中で補助学習費といって、塾などにかかっているお金が、公立だと24万円、私立でも22万円を占めています。で、幼稚園から大学まで全部公立で行くとかかる教育費は541万円、全部私立だと1830万円かかるんだそうです！小学校だけ公立でも1063万円という感じだそうです。これをどう考えるかですね。それを払う価値があるか考えるなら、またそれを払うことができるなら、払ったほうがいいし、そこまでしなくても、公立の学校でも

ちゃんと教育はしてもらえるんだからっていう考え方もできます。

まあ、私も今日のためにいくつか調べてみたんですが、そこにあるのは今日の新聞ですが埼玉の中学受験が始まって人気だとか、午前と午後2回試験を設定しているとか。入試もタダではありませんので、たくさん受ける子だと入試受験料だけでも数十万円、なんてことになっています。

さて、そうやって保護者が授業料を負担してまでなぜ私立に入れたいのかというと、やはり私立に入れる価値があると判断するからであって、私立の良さ、メリットというのがあるとされています。いくつか今回のために調べてみたんですが、まず、「独自の建学の精神がある、教育理念がある」ということ。ある意味、それを具現化するために作られたわけですので独自のものがあります。それから「独自の校風」というのがあります。「施設や設備が、お金をかけていい」というのもあります。それから「高校の受験がない」というのは、大抵中高一貫の学校になっていることが多いのでそういうことになります。大学附属なら大学入試もありません。それからもう一つ大きいのが、例えば高校までの学校ですと中高一貫教育を生かして、高校3年までにやる内容を2年生までに終わらせてしまうような進め方ができるので、大学受験にも学校だけで備えることができる。塾や予備校に行かなくてもいいと言っている学校も多くあります。それから、もちろん、保護者がお金を払って行っている学校ですので、同じような境遇のお子さんが集まっているということが言えます。

逆に、公立の良さは、「いろんな人がいる」ということ。いろんな多様性の中で学ぶことができるということ。それから「小学校からの友だちが多い」ということがあります。安心して通える、ということです。それから、私も気付かなかったんですが、区立の中学校には給食がありますが、私立だとお弁当のところが多い。お母さん方にとっては、給食があるのはとてもありがたいことですね。「通学が近い」もちろん、地元の学校ですので歩いて通えます。逆に言うと私立に通うと、あの混んだ電車に乗って通わなければなりません。それから、私立に比較すればお金はあまりかからない、ということが言えます。

最近、この学校でも多くなってきていますが、都立の中高一貫校というのがありまして、三吾小から通えるところでは、両国高校附属中学校、白鷗高校附属中学校、小石川中等教育学校あたりが考えられます。これらの学校は、数年前から、中学校から入った子供たちが高校を卒業するようになっていきます。「白鷗ショック」などと言われていますが、一貫教育をうけた子供たちから、東大の合格者が出たという話が話題になりました。昨年春の入試では、小石川が15名、両国5名、白鷗3名が東大に合格しています。都立の中ではかなりいい成績を出しています。

というわけで、いろいろな選択肢が出てきたなあと思います。しかし、当然、受験をするとすると、受験に向けた準備をしなければなりません。中学校で受験を経験することにはメリットもデメリットもあるんじゃないかなと感じています。私は普通の公立の小学校、中学校に勤めていますから、小学生が夜遅くまで塾に通っているなんて言うのは、単純にかわいそうだなあと感じています。でも、塾で勉強することそのものは子供にとって悪いことではありませんので。例えば、ある子はサッカーに打ち込んでいる、ある子は野球に打ち込んでいる、そしてある子は勉強に打ち込んでいるというのは、一つの選択肢として悪いことではない。よく塾の先生なんかはそういうことを言います。ただ、子供が夜遅くまで勉強しているというのは、健康面発達の面からよくないなあと思います。それに通塾にも気をつけなければならぬし、塾にも相当なお金がかかります。塾はある意味、シビアですので、クラス分けのテストがあって、もしかするとそこで挫折感を味わったり、モチベーションが下がったり。当然、受験の結果からもそういうことが起こります。

Fさんは、中学受験をされたんですね？

Fさん：はい、しました。

川中子：お勉強されていたときのことはどうでしたか？

Fさん：まあ、その当時はしんどかった、ですね。正直。何で他の子が勉強しないのに自分だけ、って。ただ、今になると、金銭的にも、今お金の話がましただけで、させてくれた親には感謝していますね。

川中子：そうですね。

Fさん：やろうと思って（るだけで）もできるわけではないので。結構金額的にも大きいので。

川中子：うちも、私もずっと公立だったので、高校受験が初めての受験でしたが、私立の高校に行くというのは、考えられなかったですね。経済的に。今、うちにも4人子供がいて、だんだん学費がかかるようになってきたらですね！これが、大変なんです！学費って言うのは恐ろしいものです。「あれ、うちにはもう少し貯金があったんじゃないかなかったっけ？」って、感じて。

Mさん：川中子先生、今、心にいらっしゃる皆さんが、私立中学に行かれた方が2人で、33%。そうすると、だいたい、東京都の平均が40%を超えるくらいだとすると、このデータをみても、（三吾小は）地域密着型ですよ。この地域のことがあまり分からないままでしゃべっているので、語弊があれば申し訳ないのですが、中学校までは公立で、その後受験を考えるって言う親御さんが多いのかなと、感じました。

ここにいらっしゃる皆さんの、自分の子供はこういうルートでいってほしいなという希望が聞けたらうれしいんですが。親の理想でいいです。親としては、こういう風にして自分の進路を考えて、こういう風にして社会人になってほしいなというルートはどうですか。

Dさん：私はですね。子供の自由にやらせてあげたいと思います。やはり、お金が続く限り、ですけど。私も子供4人いますので、例えば私立に行きたいって言えば行かせてあげたいですが、下がいますので最後まで行かせられるか、という。

上の子は寺中ですけど、最初中高一貫に行きたいって言い出したときがあって。一緒に見学もしましたが、本当にいい。校長先生の話もよかったですし、文化祭にいったりしてもよかったです。でも友だちが寺中に、ということで、最終的には受験しませんでした。そもそも受かってたかどうか、分かりませんけど。

私立に行きたい、っていうのは、あんまり子供自体にはない。親が行かせたいって、考えなければ、みんな普通に地元の学校に進学すると思います。

Mさん：そうですね。小学校によっては、5、6年生から隣にいる子がライバル、のような意識を持ってしまっている学校もあるそうですよ。教育環境が悪いと、足の引っ張り合いをしているような、意地悪につながってしまうような場合もあります。中学校でも、みんなで受験を乗り切ろう！ってできるところと、「こいつは同じ高校を受けるんだ。こいつの成績を下げてやろう」までではないにしろ、そういう雰囲気になることがあります。

まあ、私立に行っても公立に行っても、自分の良さを分かってくれる先生に出会えるかどうかでまったく違ってしまって、私立でも前時代的な、熟練とか鍛錬とか、すごく厳しくやられる、一時代前の教育が中心になっている学校もあるので、よく調べてからがいいです。でも学校訪問までされているのは、素晴らしいですね。

Eさん：私は、親は公立なんですが、子供は受験を考えています。本来は公立のもりだったんですが、習い事の先生から、「絶対、受験した方がいいよ！」と勧められて。それは、多様性を認めてもらえる学校へ行った方が輝く、というお考えで勧められました。それで文化祭の見学に行きました。両国と白鷗と行ったのですが、先生の姿はあまり見えないのですが、子供が自主的に活動できるのを見て感動して、娘も感動して、ここに行きたいという意見が一致して、今塾に通っています。今、3年生ですが、2月から本格的に受験勉強になります。もし落ちちゃった場合は、私立に行かずに区立の学校に行こうと思っています。それで、高校でまたどうするかを考えようかなと思っています。

Mさん：そうですね。白鷗もここ10年でずいぶん変わりましたからね。小石川、白鷗は、普通の都立高校よりもお金はかかります。私立ほどではありませんが。サテライトを取り入れたり。まあ、公立の中学校でもそういうのを取り入れたりしてやっているところもあるんですが。

私は教員になる前、塾の経験もあるので、塾がどのように生徒を獲得するかということも知っているんですが、「あなたは多様性があるから、ぜひ受験を」というのは、常套文句の一つではありますね。実際、塾にしてみれば、合格してもらえばそれが実績になりますから。それでまた新しいお客さんを捕まえることができます。塾にしても、子供にあったところを親と一緒に選ぶというのが大切かも知れませんね。

Eさん：何校か行けて、そう言われて…。

Mさん：何校か見るって言うのは、とても大切なことですね。親も一緒になって、学校に足を運んでくれるって言うのはすごくうれしいですね。

Bさん：それで、なんか、お子さんがやる気になったっていうのがすごいなあ。うちの子は近ければいい、とかそういう頭で、常に「勉強は面倒くさい。」でも、それはすでに私の遺伝子を感じるんですが！私も勉強は心の底から面倒くさかったですけど、自分にはこれになりたいっていうものが見つかったんです、たまたま。でもうちの子は、何になりたい？っていっても、「うーん…。」未だに、ぼんやりして。私も、6年生の頃からこれを目指そう、っていうのが、まあ親から言われたのがありますけど、はっきり持っていたので、とりあえずその、ゴール地点は、まあゴールではなかったですけど、それはぶれなかったって言うのがあって。何にももたないままこれからどうやってモチベーションが保てるんだろうって言うのがとてつもなく不安で。中学から、高校受験で、高校選ぶ際に一体全体どうやって選ぶの？ってところが不安で。でも、まあ、自分とは違いすぎるので、どうやって中学生生活を送っていたら大丈夫なのかも不安で。それで、今日お話を聞いたら、そのもやっというのが解消するかなと思って参加しました。

Mさん：すごくいい「不安」ですよ。将来に向けて、ただ勉強していればいよいよ、学校の成績あげればいよいよ、じゃなくて、将来あなたはどうしたいの？将来設計をどう考えるのっていう、そういう不安の投げかけ方はいいですよ。

Bさん：その、将来設計はどうなってるのっていうこともうんですけど、そここのところもやっとしているので、それならせめて勉強くらいできるようになっておいてよ！っていう言葉かけになっちゃうんですね！それは自分でもいやだなんて思って。せめて目標をもって、ここからやればいってというラインをもってほしいなと思います。

Mさん：確かに、小学校の先生って、一つ一つの内容についてしっかりと指導されるんだけど、これができるようになったら将来こんな風に役に立つよ、っていうことはあまり話されていないかも知れませんね。これから中学校には行ったら、私は数学の教師なので、「先生、これ関数の勉強してどうするの？三角形の合同条件覚えて何の役に立つの？」って言われたとき、それはこういう風につながっていて、世の中ではこういう風に応用されているだよ。裁縫一つやるのも、三角形の合同条件がふっと浮かぶ人がやっているのとそうでないのとでは、手際の良さとかそういうものがずっと変わってくるんだよってういう、専門的な話も入ってきますから、そこからまた何かを見つけてくれればうれしいんですけど。

Bさん：そういう教え方をしてくださる先生にも、私の人生であまり出会ってこなかった。今、お話を聞いて、そういう生活の中と今習っている勉強がつながるんだよって言うのはこれまで教わったことがなかった。短大まで行ったら、専門的なことも学べましたが、高校までの勉強はただただ苦しくて、とにかくテストを乗り切るための勉強って言う印象があった。我が子達も、そういう道を歩んでいくのかなとすごく不安。

Mさん：中学に行く頃には変わっていてほしいんですが。文科省も今回の指導要領から「数学的思考」というのをしっかりやりましょうって言ってきています。これからは変わっていくと思います。そうじゃない、前時代的な、受験をクリアすることだけを考えているような先生にあたってしまうと、残念ですが。一緒になって、あなたに何が起きているか、試してみようよ、っていう感じの先生がいると。

Eさん：そういう先生がいらっしゃる学校ってどこ？って聞きたいくらいです。

Bさん：そうそう！

Eさん：親が聞いても、子供には響かないですよ。子供に直で言ってもらわないと。

川中子：まさに、そういうのは出会いなので、出会えるかどうかというのはその子との関係なんですけど。ただ学校そのものはそういうことを大事にしようということを考えていて。私が子供だった頃は、この高校行ってこの大学行ってこの会社に入れば幸せになれるっていう価値観が強かったんですが、今はそういう考え方はさせないようにしています。あなたは将来どんな生き方をしたいのかっていうことを考えさせる時間をもつようになってるし、三吾小でも「キャリア教育特別授業」なんかはそういう授業の一つです。あれを受けた子が、ぜひ私は保育士になりたい、看護師になりたいって夢を語れる

ようになっているんです。学校もそういう風に努力しています。中学校には、進路指導の主任というのがいて。進路指導というのは、受験のこともちろんのこと、将来の職業についての学習などもしっかり進められるようにする仕事をします。中学校では職場体験なんかもあって、実際に働く体験もさせていただきます。小学校には主幹教諭が二人、教務と生活指導しかいませんが、中学校には3人いて、その一人が進路指導主任を担っています。ですから、そういう機会はお母さんの頃よりは増えているかな。

Bさん：そうですね。確かにそれはふえているかな。三吾小の担任の先生方も、今学んでいることが将来こういうふうに関に立つんだよって広めたいっていう気持ちはあると思うんですが、まあ金銭的なこともあるので、言い切ることができないんじゃないかなって感じがしています。やる気がある子なら私立のがいいって勧めたいとか。

Eさん：受験するならもう、「4年生から」と言われていますから。（そうですね！）その学年で、先生がアピールというか、指導というかしてもらえたら。

川中子：最初にお話ししましたが、小学校の先生たちは受験に関しては意識がありません。いろんな小学校の先生を見ましたが、受験に関する意識のある先生はほとんどいません。もし、いたとしたらちょっと怪しい先生、ですね。私が、教員になった頃は、かなりプロフェッショナルな先生がいて、小学校の先生は子供が受験するときに必要な内申書を書くのにいくら、とか、4時に勤務が終わってから塾や家庭教師でアルバイト、なんて話がありましたので。今は、そういう人はいません。

Mさん：そういうのがわりと堂々とやられていた時代ですね、3、40年前は。

川中子：ですから、担任の先生が、自分が私立の受験をしたという経験があればそういう話もできるかも知れませんが、そうでなければ、中学校への進学のことについて4年生の担任の先生がお話しするなんて言うことは全くないでしょうね。こっち（管理職）がやってください、っていえばやると思いますが。受験のことよりも、将来何になりたいかとか夢を大事にしようっていう話はもちろん大事にしていますが。確かに、受験を考えるととなると、いつスタートするかっていうのは深刻な問題です。今、それだけやらないと合格できないような状況です。中学受験の問題というのは、専門的に準備をしないと太刀打ちできないような難しいものです。大学生が解けないくらいの問題が出ますからね。

Mさん：中学校入試は難しいですよ！高校入試より難しいと思います。

川中子：そういう意味で、早めに決断しなければならないということはあるんですが。たださっきもおっしゃっていたように、子供はあまり私立に行きたいっていう意識はないので、保護者がやらせるってことにはなりません。私も読んで中に、ムチをもって無理矢理勉強させるなんていうお母さんも出てきましたが、そのお母さんの2人のお子さんの内一人は、中学で不適應を起こし、結局私立の学校を退学したなんて言う話も書かれていました。つまり、子供のモチベーションがなければ、そこで勉強するのもむずかしい。一概に私立がいい、区立がいいなんていうことも言えないし、その子にとって何がいいのかを考えていかなければならないですね。

Cさん：モチベーションがなかなか上がらないですよ。今の時点で、やらなきゃならないからただやっているっていう感じがするので。

Bさん：先生たちは、どうして楽しいと思えたのか？っていうか。何かあるんですか？先生の場合、英語が得意だって。それはもう、生まれたときからそういう環境にいて、そうなったということなんですか？それとも自分自身で英語が楽しいと思って英語の勉強を始めたのか。

川中子：そうですね。私は環境的には、まったくそれとは正反対のような環境で育ちましたけど。私たちの頃は、英語がしゃべれるとかっこいいっていう感じがありましたし、中学生になってビートルズが好きになって、英語のうたが分かるっていいなって思ったのもありました。

Cさん：英語の勉強を始めたのは、中学の時からなんですか？

川中子：そうですね。中学に入ってからです。どっかで習ったり何て言うことはその当時はなかったですね。よっぽど特別な家庭のお子さんだけですね。

Cさん：そうですね。幼児教育とかはまだそれほど盛んではなかったか。

川中子：今はね、三吾小の子でも英語教室に通っている子はかなりいっぱいいます。私たちの頃は、ピアノ習っているなんて言うのと相当なお嬢様だなんて、感じ

がしました。

ありがとうございました。

Eさん：私の子供の時代も、中学受験するなんてお金持ちの子だけでしたね。隅田川高校があったので、区立の中学校へ行って隅田川高校へ行く人が多かったです。

川中子：まあ、保護者の方が選んであげるって言うのは、小学生にとっては当然のことなので、自分で選んでくるって言うのはできないでしょうから。こういうのもあるよっていう選択肢を出してあげるって言うのは保護者にしかできない。小学校の先生はそういうことはしてくれませんので、保護者がやらなければ、自動的に地域の公立中学校という事になります。

時間もすぎてしまっていますので、もう少しお話ししていただきたいんですけど。最後にこれだけは伝えておきたいなっていうのは、選ぶにしても、選ぶことそのものは大事なんです。結果的に寺中に行ってもいいんですけど、自分で比較して、選んだんだけって言うことがその後のモチベーションにつながるからです。なんとなく中学生になっちゃった、じゃなくて、この学校とこの学校とこの学校をみて選んだんだけって言うことが大事。学校案内なんかもちょうんと配られるので、よく見て、学校公開とか見に行ってくださいってことですね。

さっき私立の学校には建学の精神がある、っていう話がありました。今は、公立の学校にも独自の教育方針や理念はどこにでもあります。特色ある教育活動っていうのは、どこの学校にもあるんです。それを知って入学していく、それを知らうと努力することがとても大事です。どんどん見に行くべきですし、この学校の生徒は明るくていいねっていうようなことを肌で感じてくるって言うことが大事です。その上でこの学校とこの学校のどっちがいいのっていう判断と一緒に考える。近いからこっちのがいいっていうかもしれないし、あの学校のお兄さん・お姉さんはすてきだったというかも知れない。それは、親にしかできない事です。

それから、子供に考えさせて、しっかり話をしないとダメですね。いろんな受験にまつわる悲劇も見えています。子供がぐったりしてしまっていたり、荒れているとか。受験勉強で疲れている、寝不足だ、なんていうかわいそうなこともありますので、しっかり家庭で話し合っ、健康の無理のない範囲というのは大事なことなんじゃないかなと思いますね。将来、100歳まで生きる時代になっていますので、中学校受験がすべてではありませんから！こんなのは人生の、本当に最初の方にあるちょっとしたことです。何回もチャンスはあります。

今すべきこと、今しかできないことを大事にしてほしい。これは、私は公立の小学校中学校の先生として言わせていただきたいのは、今しかできない事って言うのは学校にはいっぱいあります。6年生には6年生の教室でしかできない事があって、それは日々、毎時間とても大事な瞬間なんですね。それをさっきちょっと紹介したように、1月から受験のためにお休みします、なんていうのは、させないでほしいなと思います。私たちも中学校の教員でしたので、入試のころになると、推薦ではやく決まっちゃった子が、終わったーなんて言っていると、これから受験する子のやる気が無くなってしまったりするんですね。だから、学級経営はとても大事で、そういうことがないクラスをつくることに担任は力を注ぐんです。推薦ではやく決まったんだから、これからの人たちのために働け！とか。そういうふうに、受験って人間関係を崩してしまったりすることもあります。

今しかできない事を大事にするってことは、その子の人生に大きな力となると思うんです。もしかしたら、それは価値観の違いなので、うちの子はもう三吾小の子と突き合わなくてもいいんだ、中学受験して、そちらの人たちとなかよくすればいい、っていう考え方もあるかもしれません。これが正しいとか、間違っているとは言えませんが、私は公立の教員として、小学校の授業を大事にしてください、小学校の友だちを大事にしてくださいと言いたい。おそらく、小学校の時の友だちは、地元の友だちですから、一生つきあいのある可能性のある友だちになります。

もう時間なので終わりにしますが、こういうことで相談がある場合は、ぜひ担任に相談してください。そのことによって担任も意識して指導するようになるでしょうし、親が自分たちだけで悩むことでもありませんので。面談の時なんか、こういう風に考えているんですが、子供はモチベーション上がらなくて困ってます、とか。みんなが協力して、子供のために一番いいことを考えて行けたらと思います。